

## 第20回法人会全国大会が富山で開催される



第20回法人会全国大会(富山大会)が、10月24日、富山県はオーバードホールで開催されました。

全国各地より2,000名が参加し、場内は熱気に溢れ盛大な大会となりました。



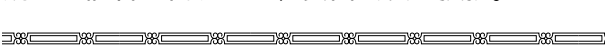
茶の湯の森からまつりの森へ

の折々の景色はパノラマのようでした。大した渋滞もなく、バスは一路富山へ無事到着。

さて、大会の第1部記念講演では、マスコミでも大変に活躍されている、猪瀬直樹氏が「混迷の時代をどう乗り切るか」と題してお話をされました。氏は、現況を踏まえ大変に含蓄のある例の調子で講演され、あつと言う間の1時間10分でした。

オープニングセレモニーでの、在田恭子氏の素晴らしいメゾソプラノの歌を聴き、第2部へと。

吉野副会長の開会の辞、国歌斉唱、来賓紹介と続き主催者を代表して、安西会長の挨拶。



世界遺産の白川郷・五箇山の合掌造りの集落

あつと言う間の1時間10分でした。

オープニングセレモニーでの、在田恭子氏の素晴らしいメゾソプラノの歌を聴き、第2部へと。

吉野副会長の開会の辞、国歌斉唱、来賓紹介と続き主催者を代表して、安西会長の挨拶。

さて、大会の第1部記念講演では、マスコミでも大変に活躍されている、猪瀬直樹氏が「混迷の時代をどう乗り切るか」と題してお話をされました。氏は、現況を踏まえ大変に含蓄のある例の調子で講演され、あつと言う間の1時間10分でした。

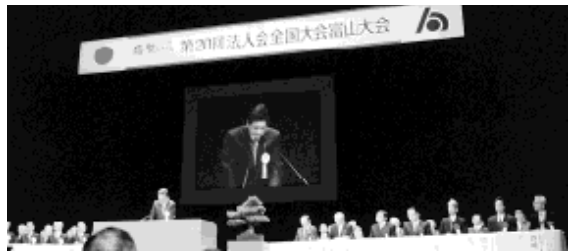
オープニングセレモニーでの、在田恭子氏の素晴らしいメゾソプラノの歌を聴き、第2部へと。

吉野副会長の開会の辞、国歌斉唱、来賓紹介と続き主催者を代表して、安西会長の挨拶。

さて、大会の第1部記念講演では、マスコミでも大変に活躍されている、猪瀬直樹氏が「混迷の時代をどう乗り切るか」と題してお話をされました。氏は、現況を踏まえ大変に含蓄のある例の調子で講演され、あつと言う間の1時間10分でした。

オープニングセレモニーでの、在田恭子氏の素晴らしいメゾソプラノの歌を聴き、第2部へと。

吉野副会長の開会の辞、国歌斉唱、来賓紹介と続き主催者を代表して、安西会長の挨拶。



(大会場のオーバードホール)

稲澤富山県連会長の挨拶と続き、会員増強などで功労のあった県連へ表彰状の贈呈。

社会貢献活動の事例発表では、地域性を活かした見事な活動に大変感心させられました。

針原青年部会連絡協議会会長より力強い大会宣言が。「われわれ法人会は、.....わが国有数の団体として、その地位を確固たるものとするに至った。今後も徹底した行財政改革の断行を求めるとともに、景気浮揚に配慮した税制改正の実現を求めるものである」と。

明年は東京で開催されますが、近藤副会長が代表アピールし、興縄副会長の閉会の辞で盛會裡に終わりました。

さて、研修会を兼ねた今回の大会には、18名が参加されました。大会の後、千里山荘にて富山情緒溢れる中での夕食、ホテルへと。

翌日は、世界遺産の白川郷・五箇山の合掌造りの集落を見学し、その後、こきりこ(筑子)を鑑賞(?)。それこそ大化改新の頃から田楽として謡継がれてきた説もあり、感慨深いものでした。

高山にて宿泊し、茶の湯の森、まつりの森を見学、さくらの朝番で有名になった飛騨古川を見学後、松本を経て無事大感動の研修会を終えました。



(第21回の開催地・東京)

## 《青年部会》第16回法人会「全国青年の集い」が、(静岡)ツインメッセで開催される

11月22日、第16回「全国青年の集い」が、静岡県ツインメッセにて開催されました。中野法人会からは、木村部会長をはじめ5名が参加しました。

式典前の部会長サミットでは、「原点に返り、考えよう。企業と社会と税の関わり合い」と題して、活発な論議が交わされました。

又、式典では、表彰などもあり、



メイン会場の前で・ハイポーズ!

「法人会会員としての自覚と経営者としての責任、そして、日々の会社経営に奮起を呼び起こす式典」になったと思います。

第1講演会では、「強者達をその気にさせる極意、教えます」と題して、サッカー日本代表チームコーチの山本昌邦氏が講演。又、第2分科会では、「快進撃の10の法則」と題して、福井県立大学教授の坂本光司氏が講演されました。

第3分科会では、「芸術、感性、経営、...キーワードは感動」と題して、美術家の柳澤紀子氏が講演され、懇親会では「五感で感じる静岡らしさ」と題して、歌手の大橋純子氏が登壇されました。

海の幸・山の幸・里の幸を満喫し『日本のまんなか、富士の麓で考えよう』のテーマの下、大盛況に終える事ができました。